

道伝えの日 芭蕉忌句会 入賞句

○兼題句「芭蕉忌」

・俳誌『飛驒』代表 小鳥幸男選

〔特選〕

五七、芭蕉忌の橋を渡れば昼の月

澤木 正子

〔推選〕

三四、芭蕉忌や雲間に光る旅の空

桐山 久枝

四二、漬け茄子の藍も肴や芭蕉の忌

下垣内 町子

・互選

〔一席〕

二一、芭蕉忌や古道に朽ちて道しるべ

田村 喜栄

〔二席〕

三七、寄り道の涌き水掬ふ芭蕉の忌

倉坪 安成

六六、時雨忌や母亡き里も遠くなり

林 史子



道伝えの日 芭蕉忌句会 入賞句

○当季雑詠句(秋・冬)

・俳誌『飛驒』代表 小鳥幸男選

〔特選〕

二、沿線の菊案内や始発駅

柴田 恭子

〔推選〕

四六、待ち合はす駅舎に木の香小六月

栗田 美由紀

六二、列車待つ靴に枯葉や無人駅

新井 裕美

・互選

〔一席〕

一四、座布団に秋の日差しや無人駅

二村 辰彦

〔二席〕

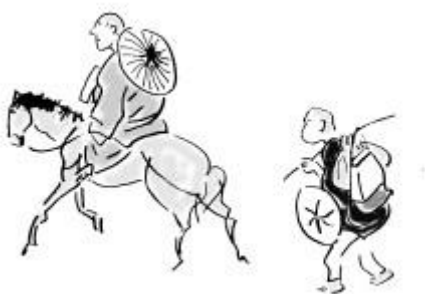
三五、新駅舎ちと覗きゆく赤とんぼ

水口 諄子

〔三席〕

二一、夕映えて稲架の匂ひの届く駅

田村 喜栄



道伝えの日 芭蕉忌句会 高校生の部 入賞句

・俳誌『飛驒』代表 小鳥幸男選

〔飛驒神岡高等学校〕

入賞	天窓の狭きを抜けて星流る	三年	荒木	あらかき	健裕	としひろ
〃	文化祭バラのような物語	一年	小坂	こいた	弥璃	みり
〃	三日月や君の全てを見せてくれ	一年	藤田	ふじた	悠樹	ゆうき

〔高山西高等学校〕

入賞	どこまでも国境作らぬ秋の空	二年	森本	もりもと	柚	ゆず
〃	雪と星共に降りける飛驒の夜	一年	洞口	ほらぐち	莉那	りな
〃	初雪を見つめる我に降る視線	一年	大野	おおの	力	りき

〔吉城高等学校〕

入賞	意地悪な長き階段ねこじやらし	一年	清水	しみず	遥花	はるか
〃	秋の蝶最後の旅のはじまりか	一年	牛丸	うしまる	祐菜	ゆうな
〃	秋風や空との境界揺れている	一年	上道	うえみち	朱理	あかり

